

1 定点医療機関当たりの新型コロナウイルス感染者数

[全国約5000の定点医療機関から6月19~25日に報告されたデータの平均値]

北海道	5.23 (0.92)	石川	5.85 (0.93)	岡山	3.68 (1.07)
青森	4.22 (1.33)	福井	3.72 (0.97)	広島	4.71 (1.08)
岩手	5.59 (1.18)	山梨	6.61 (1.03)	山口	4.55 (1.16)
宮城	4.67 (0.96)	長野	4.75 (1.15)	徳島	4.57 (1.22)
秋田	3.10 (1.10)	岐阜	7.45 (1.28)	香川	4.47 (1.29)
山形	3.72 (0.90)	静岡	5.81 (1.04)	愛媛	4.13 (1.06)
福島	5.10 (1.36)	愛知	8.03 (1.11)	高知	5.09 (1.36)
茨城	6.48 (1.10)	三重	6.32 (1.01)	福岡	5.76 (0.97)
栃木	3.96 (1.16)	滋賀	4.30 (1.14)	佐賀	7.00 (1.11)
群馬	3.85 (1.02)	京都	4.92 (1.05)	熊本	5.29 (1.03)
埼玉	7.18 (1.02)	大阪	5.16 (1.13)	鹿儿岛	8.75 (1.37)
東京	7.77 (1.03)	奈良	4.82 (1.28)	大分	4.14 (1.04)
神奈川	8.22 (1.06)	和歌山	5.58 (1.03)	宮崎	7.22 (1.23)
新潟	6.07 (1.03)	鳥取	5.18 (1.16)	鹿児島	11.71 (1.22)
富山	4.14 (0.86)	徳島	4.76 (1.03)	沖縄	39.48 (1.37)
山梨	4.02 (0.82)	根	3.42 (1.16)		

※ は感染者数、単位は人()内は前週からの倍率、厚生労働省のデータに基づく

新規入院患者数 [実数] 4567 (1.01)

全国 6113 (1.09)

コロナ第9波懸念強まる

6週連続増、沖縄突出

厚生労働省は30日、全国約5千の定点医療機関から19~25日の1週間に報告された新型コロナウイルスの感染者は計3万255人で、1医療機関当たりの平均は6.13人だったと発表した。前週比1.09倍、沖縄が突出して多い。新型コロナウイルスの法的位置付けが5月8日に「5類」に

移行してから2.3倍となり6週連続で増加、流行「第9波」入りの懸念が強まった。

【31面に関連記事】
厚生労働省は「緩やかな増加傾向が継続している。夏に向けて一定の感染拡大の可能性があり、沖縄の状況を注視していきたい」としている。

沖縄は1医療機関当たり全国最多の39.48人で患者数が急増している。前週比1.37倍で、県が独自に発表している患者総数の推計値は1週間で1万人。厚労省によると第8波のピークを超える感染状況となっている。最新の病床利用率も68%と高い水準だ。

多かつたのは鹿児島11.71人、熊本8.75人と続いた。少なかつたのは秋田3.10人、鳥根3.42人、岡山3.68人など。39都府県で増えた。新たな入院患者数は全国計4567人で、前週比1.01倍だった。

沖縄の感染拡大を受け、岸田文雄首相と6月30日協議した加藤勝信厚労相は「県とも連携して必要な対応を取るよう指示があった」と記者団に明かした。総務省消防庁によると、救急車の到着後も搬送先がすぐに決まらない「救急搬送困難事案」が1週間に全国52の消防で2617件発生。コロナ5類移行直後の週と比べ、100件以上増加した。

都道府県別で沖縄の次に

第8波超え

沖縄危機感

コロナ拡大止まらず

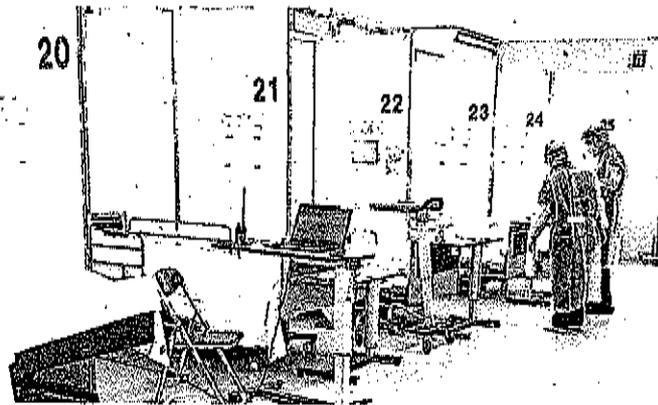
新型コロナウイルスの拡大に歯止めがかからず、流行「第9波」入りが現実味を帯びてきた。厚生労働省が30日に発表した定点把握による感染状況では、特に沖縄県で急増。数字上、昨年からの今年にかけての第8波を上回る事態となっている。社会や経済活動の活発化に加え、新たな変異株の出現が背景にあるとみられ、医療は逼迫、現場からは悲鳴が上がる。夏の流行は、沖縄で先行した後、全国に広がった例もあり、他地域への波及に警戒感が高まっている。【4面に本記】

全国への波及警戒

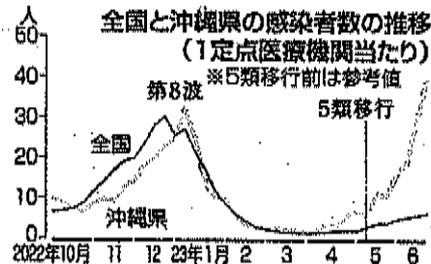
沖縄県が設置した、新型コロナウイルスの感染者ケアステーション＝6月26日（県提供）

医療逼迫恐れ

「このまま感染が拡大し続けた場合、救えるはずの命を救うことができなくなる」。26日、沖縄県の玉城デニー知事は臨時の記者会見で危機感を示した。沖縄の状況は全国でも突出している。厚生省によると19～25日の1週間で、1定点医療機関当たりの感染者数は全国6・13人に対し、沖縄39・48人。5類移行



行前の参考値のため単純比較はできないものの第8波ピーク時の31・85人を上回った。感染者数が最多だった第7波を「1の割合」(真医師会幹部)だといふ。医療逼迫も再燃しつつある。28日時点の入院者数は911人で、最多だった昨年4月の1166人に迫る。県中部や南部の医療機関では、救急診療や一般診療を制限。また搬送に90分以上の時間を要する事例も



楽観視にくぎ

県が担っていた入院調整は5類移行後、地域のクリニックなどがする形となり「診療に時間を当てられない」といった声がある。スタッフが感染するなどして100人以上が出勤できない病院もある。県側も、5類移行で法に基づいた「新型コロナウイルス対策本部」が廃止され、感染状況や医療現場の現状把握が難しくなっている。沖縄に限らず全国でも感染者数は右肩上がり。全国の定点医療機関から報告された感染者数は計3万人を

2・3倍になった。

政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会で会長を務めた尾身茂氏は今年6月14日、東京都内で開かれた講演会で「おそらく第9波の入り口に入った」と述べた。流行当初よりも致死率が下がったことは確かだが、

対策引き上げを

なぜ感染者が増えているのか。オミクロン株の新たな派生型「XBB」が影響しているとの見方は強い。XBBは免疫から逃れる力が高まり、感染者が増えやすくなったとされる。国立感染症研究所によると、12日時点で感染者から検出されたウイルスはXBBの一種が約半数を占め、国内の主流となっている。5類移行で、社会や経済の活動が平時に戻りつつあることも大きい。加えて沖縄では、国内外からの観光

客が多く、他地域よりも人の出入りや動きが活発という特有の事情があるともられる。

川崎市健康安全研究所の岡部信彦所長は「全国でも流行が拡大する可能性はある」と指摘する。行動制限は現実的ではないとして「体調が悪いときは飲み会を控えるなど、感染対策を各人で一段階引き上げる」とが必用だ」と強調。「高齢者などリスクが高い人はワクチン接種を検討してほしい」と訴えた。